

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

客観式 19 個(選択式 19 個), 論述式 16 題(1行×2, 2行×10, 3行×4, 計 34 行)

分量・難易(前年比較) 分量(減少・変化なし・増加) 難易(易化・変化なし・難化)

論述問題の数は昨年度の 14 題から 2 題増加し, 3 行の問題が 1 題から 4 題に増加したため, 論述の総字数は昨年度の 28 行から 34 行に大幅に増加した。客観式の解答数は 19 個と変化がなかった。問題に使われた図表の数は, 図 9 個, 表 3 個と, 昨年度の図 5 個, 表 5 個から増加し, 総ページ数も 17 ページと 2011 年以來の多さで全体の分量は昨年より増加した。客観問題は第 1 問の植生帯の判定が一部紛らわしく, 第 2 問の生鮮野菜の判定は難しいが, 論述問題は比較的書きやすい問題が多く, 全体の難易度は昨年と大きな変化はない。

出題の特徴

第 1 問・第 2 問はそれぞれ異なる統計資料に基づくテーマの異なる設問 A・設問 B に分けられている。第 3 問は日本の都市と社会の時代変化に関する問題が出題され, 第 1 問設問 A の日本の地形図読図問題, 第 2 問設問 B の日本の生鮮野菜の輸入に関する問題と合わせると, 日本に関する出題が全体の半分以上を占め, これまでになく多かった。

その他ピックス

第 2 問設問 A(4)の「アフリカ諸国で中国からの輸入が増加している背景」は, 第 2 回東大即応オープン第 1 問設問 C(2)で, 第 3 問設問 A(3)の都心回帰現象の理由は, 第 2 回東大即応オープン第 2 問設問 C(3)で出題した。第 1 問設問 A で新旧地形図の判読問題が出題され, 2009 年以來の地形図読図の隔年出題が続いている。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第 1 問	選択 論述	自然環境と人間生活	設問 A の新旧地形図(長野県伊那地方)は, 5 万分の 1 の地形図が縮小されて出題され, やや読みにくいだが, 判読のテーマはわかりやすい。設問 B(1)のアジアの湿潤地域の山岳における植生帯は, 低緯度の低地が常緑広葉樹林(熱帯雨林)と考えられるので, D の判定が紛らわしいが, 温帯の常緑広葉樹林(照葉樹林)と考えられる。設問 B(2)は落葉する理由としての極端な低温と乾燥がみられないことを考えればよい。	やや易
第 2 問	選択 論述	世界の貿易	設問 A のアフリカ 3 カ国の貿易相手国の判定は容易であり, 論述問題も解答しやすい。設問 B の日本の生鮮野菜の輸入相手国に関する問題は統計の判定, 論述テーマともやや難しく, 設問 B(2)の中国からのたまねぎ, 韓国からジャンボピーマン(パプリカなど)の輸入が増加した理由, 設問 B(3)のメキシコとニュージーランドからのカボチャの輸入が多い理由をともに自然条件の違いから答える問題は, 多くの受験生が戸惑ったと思われる。	やや難
第 3 問	選択 論述	日本の都市と社会	設問 A は 3 つの区がそれぞれ, 都心・住工混在地域・住宅地の 3 つのタイプであることが判読できれば, 論述問題は答えやすい。設問 B の 6 つのデータの経年変化の判定は, 最小値を 0, 最大値を 100 で示す見慣れない表現方法で戸惑ったと思われるが, 1955 年以降一貫して人口が減少する D-③, ドーナツ化と都心回帰がみられる B-①などわかりやすいものを判定し, 設問 B(2)の設問をもとに C-⑥を判定するとよい。設問 C の三大都市圏の通勤人口に関する問題は指定語句が解答の手がかりとなる。	標準

※難易度は 5 段階「難・やや難・標準・やや易・易」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 客観式問題での得点が合否にかかわらず, 教科書やセンター試験の過去問などで基本的知識を確実に習得しておきたい。
- 指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60 字程度の短い論述演習を繰り返し, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
- 統計を解釈する問題が頻出しており, 統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。
- 日本の変化に関する問題が頻出しており, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」など時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの年代の特徴を理解しておきたい。
- 日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
- 今年度出題されたが, 典型的な地形の地形図をもとに, 等高線の形状から地形がイメージできるようにしておきたい。